

2006年4月3日

2006年度新入社員に対する挨拶（要旨）

社長 米倉 弘昌

化学産業は、人々の豊かな生活に欠かせない製品を供給し、21世紀の人類社会が抱える課題である食料の確保、疫病からの保護、新薬の開発、環境の保全などの克服のために、大変重要な役割を果たしている。

現在、当社グループは「あらゆる面で強靱な真のグローバル・ケミカルカンパニー」に発展していくことを目指し、2004度から3年間の中期経営計画を推進している。業績面では中期経営計画で設定した最終年度の業績目標を1年前倒しで達成する見込みであり、また将来の成長に向けた大型プロジェクトについては、先日サウジ・アラムコとのラービグ計画の起工式を行ない本格的な工事に着手し、情報電子化学部門では大型液晶テレビ用偏光フィルム設備の増強を行ない、さらに住友製薬と大日本製薬が合併し、大日本住友製薬として住友化学グループの新たなメンバーに加わる等、予定通り着実に進展している。最終年度となる本年は、「グローバル・ケミカルカンパニーの実現に向かって、たゆみない創造と革新」を全社の行動指針に掲げてスタートしたところである。皆さんには、3つのことを望みたい。

「社会から信頼される人」になること

当社の諸先輩は、住友の事業精神「信用を重んじ確実に旨とする」を尊重し、地道に社会からの信頼を培ってこられた。そうした努力があって、現在、当社は国内外で事業拡大を進めることができるのであり、今後もその信頼を大切にしていかなければならない。一人ひとりがしっかりとした遵法精神と高い倫理観を持ち、何事においても、**正直でかつ誠実に行動されること**をお願いしたい。

企業の社会的責任について

当社が真のグローバル・ケミカルカンパニーとなり持続的に発展していくためには、経済・環境・社会の全ての面でバランスのとれた活動を行うことが絶対条件である。当社には事業は自ら利益を得るものであるとともに、社会に対しても利益あるものでなければならないという住友の事業精神が脈々と流れている。企業としての社会的責任を果たすことの重要性を十分認識していただきたい。

「世界に通用するプロフェッショナル」になること

グローバルな事業展開に伴い、海外で働く従業員数と住友化学本体の社員数は、ほぼ同数となった。今後もますます海外事業の比率は高くなっていくが、当社がさらなるグローバル化を実現するには、あらゆる面において世界レベルであることが求められる。これまで培ってこられた専門性にさらに磨きをかけ、**世界に通用する実力を身につけるとともに、若いうちから真のコミュニケーション能力、国際感覚を磨く努力**をしていただきたい。

以上

[ご参考]

入社式 : 本社（東京）にて 10時00分から
新入社員数 : 108名